

田和山へ森から

第 250 号
令和 7 年 8 月 1 日
里山を育てる会

7 月の作業から

オオキンケイギクの駆除



田和山の
入り口の平
坦地に数年



前から、特定外来生物に指定されているオオキンケイギクが侵入しており、見つけ次第に駆除を行っています。残念ながら今年も写真右のように花が咲いているのが解りました。まだ種が出来ていませんが、女性陣の手で根こそぎ堀取り駆除しました。

西側斜面の草刈り



よく見えるようになったあじさい (7 月 4 日)

西側水道道沿いの斜面の草刈りを 7 月に入り行いました。7 月に入り午前中作業に切り替えたので日陰での草刈りということで、多少とも能率が上がるはずでしたが、今年は、6 月 28 日の梅雨明以来、連日 35 °C 前後の猛暑が続いていますので、悪戦苦闘の中で草刈りを進めました。

市道沿いの、状況は写真(上が作業前、下が作業後)の通りです。



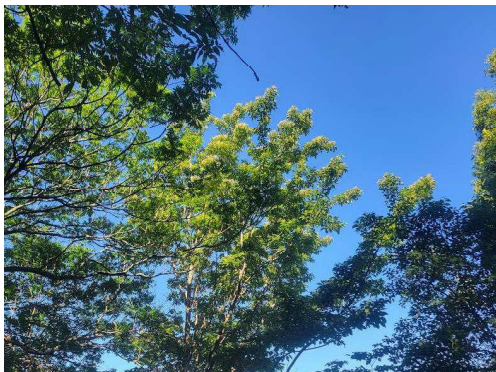
8 月の予定

主たる作業

- ・ 竹林の整備
- ・ 西側斜面の林内整理

田和山の樹木 第 63 回 クマノミズキ

田和山には、入り口から 50 ㍍ぐらい遊歩道を進んだところに斜面に 1 本自生しています。6 月下旬頃に枝先一面に白い花を咲かせます。ちょうど、エディオンから田和山に向かう道の正面です。



クマノミズキは、本州南部から四国、九州にかけ分布しており、紀伊半島の熊野地方に多く分布しているところから、クマノミズキと名付けられたといわれています。



春先に枝を切りますと、樹液が滴ることからよばれているようです。

枝先に咲いた花が終わると 5,6 ミリの球形の実をつけ、10 月には黒紫色に熟れ、野鳥の餌になります。おそらく、田和山のクマノミズキは、そのような野鳥が種を運んだのではないのでしょうか。

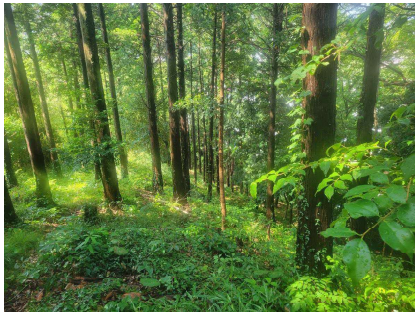
今後の活動予定 8 月 1 日(金)8 月 8 日(金)、8 月 22 日(金)、8 月 29 日(金)@ 9 月 5 日(金)、9 月 12 日(金)、9 月 20 日(土)、9 月 26 日(金)となります。時間は全て 9:00 からです。

田和山の森から

第 251 号
令和 7 年 9 月 5 日
里山を育てる会

8 月の作業から

ヒノキ林の侵入マダケの伐採



精米所の上部のヒノキ林内には、周囲にあるマダケが侵入してきますので、毎年、タケが柔らかい時期に伐採整理を行っています。

今年も 8 月の最初の作業として行いました。写真の様な林内となりました。

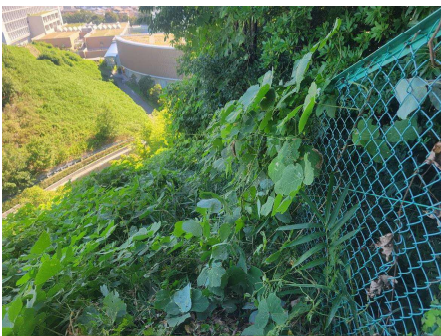
ノキなどの枝を切り落としました。この作業によって、宍道湖の湖面を眺められるようになりました。



写真が
業前が
業下作
後になり
ます。

北側フェンス周りの整理

北側のフェンスは、市立病院の進入路法面にクズが繁茂してフェンスに巻き付いていますので、外側 1 m の刈り払いと、巻きついたクズなどを除去しました。この作業に併せ、田和山の最高点(標高 46m)の展望台から、宍道湖が見通せないようになっていましたので、フェンスの上に伸びてきたタブ



9 月の予定

主たる作業

- ・北側のフェンス周りのつるの除去
- ・シイタケの栞場異動
- ・竹林の整備

田和山の樹木 第 64 回 キハダ

田和山の東側の斜面キハダが、2 本だけあります。このキハダは、2014 年にクヌギ共に 10 本植栽したものです。この内の 2 本が残っています。植えてから 10 年で、木肌は平滑ですが、樹齢を重ねると共に凹面のコルク化が進んできます。



葉は羽根状の複葉で、2～6 組の小葉が対になっており、小葉は楕円形で、長さ 5～12 cm、幅 3～5 cm ぐらいになり、雌雄異株です。ミカン科の樹木ですので、カラスアゲハなどが好んで卵を産み付けるといわれています。

キハダは全国に分布しており、古くから重要な薬用樹として保護されていましたが、近年は伐採が進み、数が減っています。山陰地方でも山の谷筋で見かけられます。

樹皮の内側(内皮)が右の写真の様に黄色いことからキハダと名がついたといわれています。この内皮にベルベリンという物質が含まれており胃腸薬等に利用されています。

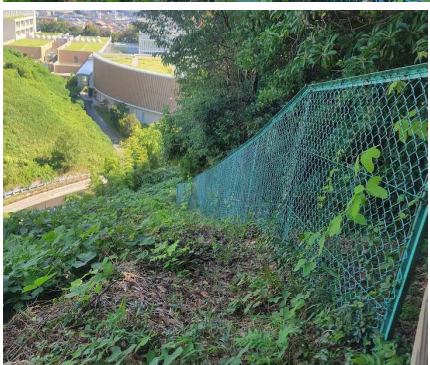
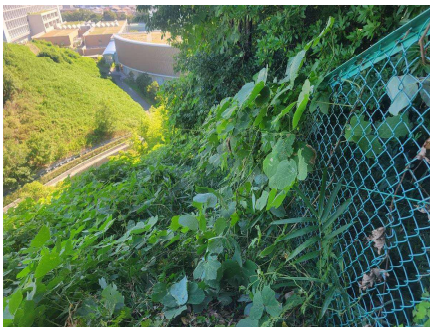


今後の活動予定 9 月 5 日(金)、9 月 12 日(金)、9 月 20 日(土)、9 月 26 日(金)、10 月 3 日(金)、10 月 10 日(金)、10 月 18 日(土)、10 月 24 日(金)、10 月 31 日(金)です。時間は 9:00 から、10 月から 13:30 ただし 18 日は 9:00 からとなります。

9 月の作業から

北側フェンス病院側周りの整理

北側のフェンスは、市立病院でクズが繁茂してフェンスに巻き付いている部分を 9 月に入ってからも外側 1 m の刈り払いと、巻きついたクズなどを除きました。写真上が作業前下が作業後になります。



モウソウチク林灌木整理

モウソウチク林内に繁茂した灌木の刈り払いを、9 月に入り行いました。竹林の整理は、この後 10 月末までに、発生してから 5 年以上経過したタケと今年発生した 1 年目のタケを適

正配置(1000 m²あたり 200 ~ 300 本程度)になるように伐採整理を行う予定です。写真左が作業中、実が作業後で



彼岸花が満開です

猛暑が続いた今年ですが、ヒガンバナがその名の通り、彼岸の入り(今年は 9 月 20 日)と共に咲き始めました。(写真は、9 月 20 日の作業日に撮ったものです。)



10 月の予定

主たる作業

- ・シイタケの榎場異動(昨年植菌した原木)
- ・竹林の整備
- ・シイタケ原木の伐採(来春植菌予定)

田和山の樹木 第 65 回 サンショウとカラスザンショウ

田和山にあるミカン科の樹木は、前回のキハダの他にサンショウとカラスザンショウがあります。サンショウは低木で 3 m、カラスザンショウは高木で 10m 以上の樹高になり、見た目も用途も全く異なるものです。いずれも鋭い棘を持っています。

サンショウは「木の芽」ともいわれ春の山菜の一つで、独特の辛み、香りがあり庭に余裕があれば植栽したら良い木です。サンショウは、雌雄異株のため山椒の実を取るためには、雌木ではないとだめです。サンショウの棘は、写真左のように葉の付け根に対生して存在しています。見た目が良く似たイヌザンショウはこの棘が互生しておりそれで区別します



カラスザンショウは、葉が長さ 5 ~ 15 cm の小葉が 9 ~ 15 対集まってできており、全体として長さ 30 ~ 80 cm の大きな羽根状になります。葉は濃い緑色で縁には浅いギザギザがあり、裏面は粉を吹いたように白くなっています。葉の軸や裏面、枝に細かな棘があり、若い葉を

揉むとミカン科に特有の強い香りがします。サンショウのように若芽や果実を食用とすることはありません。クロアゲハやカラスアゲハなどの蝶の食草です。

サンショウは、灌木整理の際に伐採されることが多く、田和山には 10 数本、カラスザンショウは、モウソウチク林に樹高 10 m を超える木が 1 本だけあります。その 1 本は、写真右のように棘が丸くなっています。



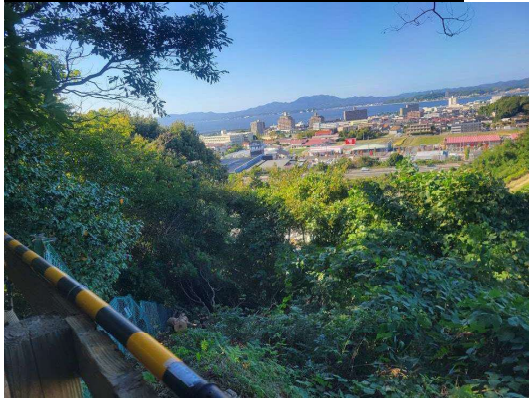
今後の活動予定 10 月 3 日(金)、10 月 10 日(金)、10 月 18 日(土)、10 月 24 日(金)、10 月 31 日(金)、11 月 7 日(金)、11 月 15 日(土)、11 月 21 日(金)、11 月 28 日(金)です。時間は 13:30 から、ただし土曜日は 9:00 からとなります。

田和山へ森から

第 253 号
令和 7 年 11 月 7 日
里山を育てる会

10 月の作業から

展望台から眺める朝日山



展望台からの眺めを更によくするために、障害になっていたタブとスダジイの

枝を整理しました。宍道湖の湖面はもとより、朝日山(神名火山の一つ)もくっきり見えるようになりました。(251 号で、田和山の最高点を 46 m と紹介しましたが 49 m に訂正します)

本程度) にすることです。1 日では出来ずに、途中ですが終わったところは日差しが届くようになりました。

シイタケ原木を桧場へ

一昨年の秋に伐採し、昨年の春に植菌したシイタケ原木を桧場(シイタケを発生させる場所)へ移動しました。2 年経過していますが、まだかなりの重さがあり、林内作業車を用いて行いました。ギリギリの道幅のところを縫うように運び込み並べました。(写真



並べました。)

モウソウチク林の本数調整

モウソウチク林内の整理を始めました。整理の目標は、成立本数を適正配置 1000 m² 当たり 200 ~ 300



上が運搬中で下が並べ終わったところ)



11 月の予定

主たる作業

- ・竹林の整備
- ・シイタケ原木の伐採
- ・西側斜面林床整理

田和山の樹木 第 65 回 コウゾ



田和山の樹木を紹介していますが、残りは低木が中心になります。今回はコウゾです。コウゾは和紙の原料としてミツマタと並んで使われています。そのため、名前だけはよく知られていますが、実物を特定することはなかなかありません。

コウゾはクワ科の低木の樹木で、高さは最大で 6 m ぐらいにしかありません。

紙の原料として用いられるコウゾは、桑の栽培と同じように、萌芽枝の中から通直の枝を数本残し、1 年目の冬に切り取り皮を剥ぎ繊維を使用します。しかし、現在そのような栽培をしている和紙の生産地は少ないといわれています。栽培されていたものが野生化して、明るい谷間を中心に多く分布していますが、見過ごしてしまうことが多い樹木です。繁殖力は旺盛で、根茎があればあちこちで芽を出します。

田和山のコウゾは、平成 30 年の春に浜田市三隅町の生産者から譲り受けて植栽したものです。

副会長の荒川益男さんが長年の保護司としての活動で、藍綬褒章を受章されました。おめでとうございます。

今後の活動予定 11 月 7 日(金)、11 月 15 日(土)、11 月 21 日(金)、11 月 28 日(金)、12 月 5 日(金)、12 月 12 日(金)、12 月 20 日(土)が年内最終です。時間は 13:30 から、ただし土曜日は 9:00 からとなります。令和 8 年 1 月 9 日(金)に作業を行い新年会を計画します。